

福井県医師会

だより

第601号 平成23年(2011)7月

第64回 福井県医師会総会  
第90回 福井県医学会 特集



医学会会場での大中医会長(左)・藤田坂井地区医師会長(右)

## 醫 縫 録

### 地域医療事始

杉田玄白記念公立小浜病院長 吉 田 治 義



今年の1月に福井大学医学部から本病院に転勤し、小西淳二前病院長から若狭地域基幹病院の運営責任を引き継いでおります。これまで勤めていた大学病院腎臓内科では、専門医療者の育成と高度医療の実践を通して県民の皆様の健康生活に貢献するよう努めてまいりましたが、今回、直接住民の皆様の声聴きながら地域医療にあたることとなり新しい緊張感を感じているところです。

本病院では若狭地域の基幹病院としての整備事業が進められており、平成19年に新病棟建築と救命救急センターの開設そしてPET-CTなどの高度医療機器設備の導入が完了し、現在最終事業の外来棟の新築と放射線がん治療機器リニアックの導入工事を行っているところです。当院は病院理念として「地域住民の皆様とともに歩み、愛され、信頼される病院」を掲げて、毎年の病院目標を設定しております。本年は、1月に日本医療機能評価機構の更新審査を受けたことを踏まえて大目標として「病院機能の継続的な向上」を設定し、具体的には1) 地域連携、病診連携の向上、2) 医師、看護師の確保、3) 健診業務の充実、を図ることを目指します。

若狭地区は福井県の西端に位置する僻地ですが、小浜藩以来の歴史と文化の地であり、住民の声を外来診療や病院評価委員会および小浜市連合婦人会との懇談会などを通して聴いておりますと、県立病院であった頃から住民が育ててきた病院に対する愛着と期待が大変大きいことを感じます。小浜市を中心にして若狭地区の人口は6万8千人で、近辺を加えると8万人ぐらいの医療圏になりますが、若狭地域には基幹病院と云える総合病院は公的、民間を含めて本院しかありません。当然ながら、「若狭の医療は若狭で完結」を要求されておりハード面での対応は見通しが立ったものの、マンパワーの不足は大きな阻害要因になっています。このため必然的に地域連携と病診連携の推進が今年の重要な課題に取り上げられました。地域医療支援病院の資格取得が可能なまでに紹介率、逆紹介率を上げ、結果的に外来受診患者数を減らしてでも、急

性期の入院患者数を増やし、病状の安定した患者さんは他院への転院を勧めていく方針で運営していくことになります。今後、上中病院や高浜病院などの地域内病院と地域医師会を含めた三者間の呼吸を合わせて「若狭の医療は若狭すべての医療機関の協力で完結」を目指し、地域住民の理解を求める努力をしたいと思っております。

看護師不足でもありますが、看護学院を持っていることもあり7:1看護体制が何とか維持できておりますが病床のフル稼働には至っておらず、なお努力が必要です。一方、医師不足については、今年の1月の着任早々には内科崩壊の寸前まで来て、断腸の思いでしたが救急患者を他院へ転送せざるを得なかったこともありました。その後、地域医療機関のご協力を得て、また院内では診療科の枠を超えた協力体制をつくることで何とか乗り切ることができました。4月からの新年度は県当局と福井大学医学部のご高配により、必要最低限の内科医師確保の見通しが立ったところです。当院は研修医からは、地域医療と救急・総合診療の勉強に役立つ病院として一定の評価を頂いており、おかげで活気ある病院の雰囲気を醸し出しております。しかし、臨床研修指定病院として満足な機能を維持するためには内科をはじめとして各専門分野の指導医層を充実させねばと思っています。そのためには、キャリアアップにつながるような国内あるいは海外の主要医療機関への研修派遣を積極的に進めることや、大学院進学希望者には協力を惜しまないなど、若手医師の立場になって迎える体制を作っていきたいと思っております。

地域住民に愛され信頼される病院であるためには救命救急センターと健診センターの医師の充実も課題です。皆で知恵を出し合いFestina lente(ゆっくり急げ)の心づもりで参りたいと思っておりますので、宜しくお願い申し上げます。